

講義予定

2025. 4.21. 大橋 幸泰

[概要と目標]

17 世紀以降(近世～近代)日本列島に暮らした生活者の営為をおもな材料に、学問として歴史に向き合う際の基本姿勢を学ぶとともに、現代の秩序を相対化できるようになる。

[予 定]

- 4 月 21 日 1.歴史的存在としての私たち(1)—日常生活のサイクル
- 4 月 28 日 2.歴史的存在としての私たち(2)—嵌め込まれる身体
- 5 月 5 日 休校
- 5 月 12 日 3.歴史における境界(1)—国境・国民
- 5 月 19 日 4.歴史における境界(2)—マイノリティとマジョリティ
- 5 月 26 日 5.過去と向き合うための身構え(1)—民間学としての日本史学
- 6 月 2 日 6.過去と向き合うための身構え(2)—史料論と史料保存運動
- 6 月 9 日 7.中間小活—常識の可変性／歴史と私たちをめぐる議論の時間
- 6 月 16 日 8.日本の近世・近代(1)—近世秩序の勃興〈中世から近世へ〉
- 6 月 23 日 9.日本の近世・近代(2)—幕藩体制の成立と近世社会〈近世①〉
- 6 月 30 日 10.日本の近世・近代(3)—民間社会の成長と明治維新〈近世②〉
- 7 月 7 日 11.日本の近世・近代(4)—国民国家の成立と近代社会〈近代①〉
- 7 月 14 日 12.日本の近世・近代(5)—大日本帝国の矛盾と破綻〈近代②〉
- 7 月 21 日 13.総括—日本史という枠組み／日本近世・近代史をめぐる議論の時間
- 7 月 28 日 14.試験

[教科書]

須田努・清水克行著『現代(いま)を生きる日本史』(岩波現代文庫、2022 年)【要購入】

[付 記]

- 1.次回以降、レジュメについては、前日 23 時 59 分までに Waseda Moodle にアップするので、各自印刷して講義に持参するか、ノートパソコンなどから閲覧すること。
- 2.試験のほか、小レポートを求める。小レポートの詳細は別途指示する。なお、小レポートを提出した者が試験の受験資格を得る。
- 3.大橋と受講生との間の緊張関係を維持するため、毎回、講義の要約(200 ～ 400 字程度)を記した講義記録の提出を求める。講義中に時間をとって講義記録を書く時間を確保するので、ノートパソコンなどから、Waseda Moodle の提出先へ、講義中に提出することが望ましい。講義中に提出できない場合は、翌日(毎週火曜日 23 時 59 分締切)までに提出する。この提出をもって出席とみなす。箇条書きではなく、必ず文章にまとめること。ただし、講義記録そのものは評価対象にはしない。